これからの千葉市について話してみませんか　意見交換会について

まちを良くするために活動している市民活動団体が参加し、活動をはじめたきっかけや団体活動がより活発になるために市に期待するサポートをテーマに、団体同士で活発な意見交換が行われました。

１　開催日時

１０月２９日（木）１８：３０～２０：００

２　開催場所

千葉市民活動支援センター

３　意見交換会に出席いただいた団体（順不同）

ちば元気まちづくり友の会　１名
ＮＰＯ法人カフェ・バルコニーの家　２名
特定非営利活動法人まちづくり千葉　１名
海パスタ　１名
リベルタちば　２名
一般社団法人ＮＯＣＡ　２名
千葉市女性団体連絡会　２名
ＮＰＯ法人千葉まちづくりサポートセンター　１名

計８団体１２名

４　主な意見

（１）団体活動を始めたきっかけ

・千葉に生まれ育ったので千葉のアイデンティティ創造と発想があった。町内会、商工会の青年部を担い、まちを良くしていこうという想いがあったが、活動を具体化するには組織を立ち上げる必要があり、団体に属した。
・女性の社会参加、男女共同参画の推進がきっかけ。
・超高齢化、特に女性の独居に対してどう対応するか。これらの方々を元気にするためにはどんな活動をしたらいいか。住み続けたいまちを目指し活動を始めた。
・シニアを元気にしたいとの思いがきっかけ。高齢化が進み社会の基盤がシニアにもなる。元気でいるには歌を歌ったり、ウォーキングしたり、予防が必要。
・中学生のころ育った施設に講演に行った際、施設の状況が以前と変わっていないことを目の当たりにしたことがきっかけ。行き場のない若者たちをサポートしたいという気持ちで活動を始めた。共感できる、当事者感が持てる、人の役に立てる、や

りがいがあるといったことが活動の原動力となっている。

・海外から帰国したとき息子が精神を病んだことがきっかけで、自分も大学で地域福祉の分野を学び、精神障害の人たちの自立支援の活動を始めた。

・「自分らしく生きるために」というテーマの講座を受講し女性の参画について学んだことたことがきっかけで、団体に参加するようになり、男女共同参画社会の実現に向けた意識改革の取組みを進めている。

・団体を創設者から誘い、相談を受けたことがきっかけ。町内自治会長の経験を活かし、自分たちで海辺のゴミ拾いのボランティア活動等を進めつつ、千葉市ともうまく連携を図り活動の幅を広げている。

・民間企業が効率性を重視する一方、地域での助け合いは市や自治会が担う傾向があり、双方の繋がりが薄くなっていた。この繋がりを再生させるために活動を始めた。

・子どもを預ける環境の少なさに憤りを感じたことがきっかけ。女性が活躍できる環境整備が必要と思い、活動を始めた。活動を広げるには、地道な声掛けや顔を合わせて会話していくことが必要。共感が繋がりを生む。

（２）市に求めずになぜ、自分たちで活動をはじめようとしたのか

・市に頼ってはいけない。市はフォローしてくれればいい。市は公平な立場。民間としての活動は山あり谷ありだから市にはできない。最初は地縁団体が活動すればいいと思ったが、より広範囲で継続して考えたかった。

・市は支援してくれるだけでいい。市は縦割りなので改善してほしい。一人ひとりがレベルアップし自立しないと、自主的な社会ができない。そう思い、自治会も立ち上げた。

・楽しくやるために、自分で行動してどうすれば実現できるかを考える。市にはできない。

・市がやればいいのではと疑問を感じた。

⇒これからは市民が主体となってやらなくてはいけない。それを皆が認識しないと。

（３）団体活動がより活発になるために市に期待するサポート

・市に頼りすぎないことが大事。

・団体をフォローしてほしい。具体的には、人、モノ、カネ、情報。これからはスポンサーを付けるなどしたいので応援してほしい。

・人、モノ、カネ、情報。稼ぐ方法を私たちも身に着けたいので情報が欲しい。はっきり言って指定管理はもうからない。

・良い活動をしても、発信しなければ価値は生まれない。情報を発信できる場が欲しい。

・団体が活動しやすくなるよう、施設の利用を優先してほしい。

・拠点確保のために、市が調整役を果たして欲しい。

・市の強みは信頼があること。市の応援、後押し、お墨付きがあるといい。
・市に魅力がない。財政難はわかるがそれでは活気がなくなる。目玉を見つけるべき。逆に私たちはそれを応援することができる。

（４）その他

・今後のまちづくりは、地域、事業者、行政の三位一体で進めることが大事。
・自治会とのつながりを持ち、地域に認められるようになると活動が広がる。
・ＮＰＯも地域に根を張って活動をしていくことが大事。
・活動する上で、自治会や地域との調整が難しい。活動を受け入れてもらうためには、自分たちがどんな団体か利用者がどんな方々か理解してもらうことが重要。
・団体同士の連携、事業の計画、マーケティングに力を入れる必要がある。
・市とうまく連携するために、自分たちで活動して実績を作ることが必要。
・市も団体も縦割りはやめて、横断的になる必要がある。
・人脈が大事。
・現役世代がボランティア活動に参加することは難しい。また、リタイアしても参加する人は少ない。しかし、人の役に立ちたいという気持ちを持っている人はいるはずで、とにかく声をかけることが必要。
・若年層の自立支援、居場所づくりをしている。利用者は、お小遣い制の見直しを訴え、便利屋として働き、労働の対価として賃金を得るようになった。必要なのは、自分のやったことに価値を感じること。